

## 「麦」と「水」

### —平城宮・京出土の墨書須恵器から—

**はじめに** 平城宮・京で出土する墨書土器のなかには、「麦垵」・「麦」などと書かれた土器がいくつかある（表7、図89）。それは須恵器杯Bとその蓋にかぎられ、土師器にはない。いっぽう、『正倉院文書』にも「麦垵」という器名が見えている。両者はおそらく、同一物であろう。小稿では、須恵器杯Bの一部が「麦垵」にあたることを論証したいと思う。

**麦 垵** 現在のところ、「麦垵」と書かれた須恵器は平城京左京二条二坊十二坪の土坑SK69（図89-1）<sup>1)</sup> から、「麦坏」は平城宮東院の斜行溝SD8600から出土している（図89-2）。いずれも須恵器杯Bで、底部外面の中央に墨書がある。麦垵のほうは口縁部を完全に欠失しており、その口径や器高を測ることはできないが、その高台径は128.0mmである（奈良市教委所蔵、筆者実測）。一方、麦坏は完形品で、口径173.0mm、器高36.5mm、高台径は130.0mmである。これらのほかにも「麦」と書かれた須恵器がいくつかあり、それらもすべて杯Bかその蓋である。例えば、平城京左京三条二坊SD5100（図89-3）や平城宮SD1250（図89-4）、SA109北溝（図89-5）、SB2472では、「麦」・「麦子」と書いた須恵器杯Bが出土している。高台径と口径との相関より、「麦垵」の口径を復元すると、それはおよそ170mmであった。これはほかの「麦」字墨書須恵器とほぼ同じ口径である。したがって、1～5に書かれた「麦」は、それらが麦垵であったことを示すと考えられる。

ところで「麦垵」という器名は、『正倉院文書』にわずか1箇所登場する。東大寺写経所において、天平宝字2年（758）6月22日から始まった金剛般若経一千巻写経事業のとき、7月24日付で麦垵150口が、羹坏200口、饗坏150口、片盤150口とともに請求されており（『東大寺写経所解案』、『大日本古文書』編年文書13、476～477）、「麦垵」・「麦」と書かれた須恵器杯Bとは同一物であろう。ところが、麦垵はなぜか支給されなかった。このときは「水垵」109口と「垵」41口とが、先に請求された麦垵の代用を果たしたものである（『食料雑物納帳』、同254～257）。このことから、水垵と麦垵とは一応異なる器種だが、その法量に大差はなく、使用上明確に区別されてはいなかった、と想定できる。

**水 垵** 須恵器に書かれた「麦」が麦垵を意味するならば、同じく須恵器食器に書かれた一字墨書「水」も、水垵を指す可能性がある。ここで筆者の興味を惹いたのが、平城宮SD2700出土の墨書土器である。それは須恵器杯B蓋の破片で、頂部にいちどは「水」と書き、それが薄れるか消去されたあとで、その上に「麦」と重ね書きしたものである（図89-9）。『東大寺写経所解案』、そして『食料雑物納帳』の双方から、水垵が麦垵の代用たりえたことを参考にとすると、この須恵器杯蓋に書かれた「麦」は麦垵を、「水」は水垵をそれぞれ表していた、と考えても不自然ではない。さらに想像を逞しくするならば、この蓋にははじめ、水垵を示す「水」が書かれていたが、のちに麦垵を指す「麦」が上書きされた、とも解釈できる。このように、須恵器に書かれた「水」のなかには、それが水垵であることを示す例が含まれていると考えられる。

そこで今度は、「水」字墨書須恵器を集めてみよう。「水」字墨書土器は、これまでに平城宮で19点出土しており（図89-8など）、このうちの13点が須恵器杯とその蓋である。また、藤原宮SD2300でも、「水」と書いた須恵器杯が出土している（図89-6・7）。ここでも「水」は、須恵器の杯類に偏る傾向がある。現在のところ、「水垵」と書かれた須恵器杯が出土していないため確定はできないが、水垵は須恵器杯A・杯Bの一部にあたると考えられる。

**まとめ** 以上をまとめると、大口径の須恵器杯Bは古代の麦垵を含んでいる。そして麦垵は、水垵によって代用されることがあった。「水／麦」と書かれた須恵器杯B蓋の存在も、両者が用途上の姉妹器種であったことを暗示している。須恵器杯類に書かれた「水」字は、「麦」と書いて麦垵を指したのと同じく、水垵を示す場合を含むと思われる。なお、東大寺写経所における麦垵は「麦」、すなわち麺類（索餅）の食器であったと考えられるが、このことは別に論じたい。

なお、本稿はJSPS科研費JP18K01082「飛鳥時代・奈良時代の土器様式からみた日本古代の食具様式および食事法の復元的研究」の成果の一部である。（森川 実）

#### 註

1) 奈良市教育委員会『平城京跡出土墨書土器資料Ⅰ』2002。

表7 平城宮・京出土の「麦」字墨書須恵器

出土遺跡・地区	遺 構	器種	部 位	口 径 (mm)	器 高 (mm)	高台径 (mm)	墨 書	図番号	出 典
平城宮20次	SD2700	杯 蓋	頂部外面	—	—	—	水／麦	図89-9	『平城宮出土墨書土器集成』Ⅰ（奈文研1983）-174
平城宮128次	SK9608C	杯 蓋	頂部外面	—	—	—	□／□／□粥／ ／麦		『平城宮出土墨書土器集成』Ⅱ（奈文研1989）-437
平城宮172次	SD2700	杯 蓋	頂部内外面	—	—	—	(内面) □／五 (外面) 麦		『平城宮出土墨書土器集成』Ⅲ（奈文研2003）-355
平城京左京二条二坊	SK69	杯 B	底部外面	—	—	128.0	麦垵	図89-1	『平城京跡出土墨書土器資料』Ⅰ（奈良市教委2002）-066
平城宮133次	SD1250	杯 B	底部外面	173.0	62.0	127.5	麦子	図89-4	『平城宮出土墨書土器集成』Ⅱ（奈文研1989）-573
平城宮	SD8600	杯 B	底部外面	173.3	36.5	130.0	麦坏	図89-2	『奈文研紀要2017』（奈文研2017）
平城宮2次	SA109北溝	杯 B	底部外面	181.0	56.0	130.0	麦	図89-5	『平城宮出土墨書土器集成』Ⅰ（奈文研1983）-001
平城京左京三条二坊	SD5100	杯 B	底部外面	210.0	75.0	138.0	麦	図89-3	『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』（奈文研1996）
平城宮21次	SB2472	杯 B	底部外面	—	—	130.0	麦		『平城宮出土墨書土器集成』Ⅰ（奈文研1983）-119

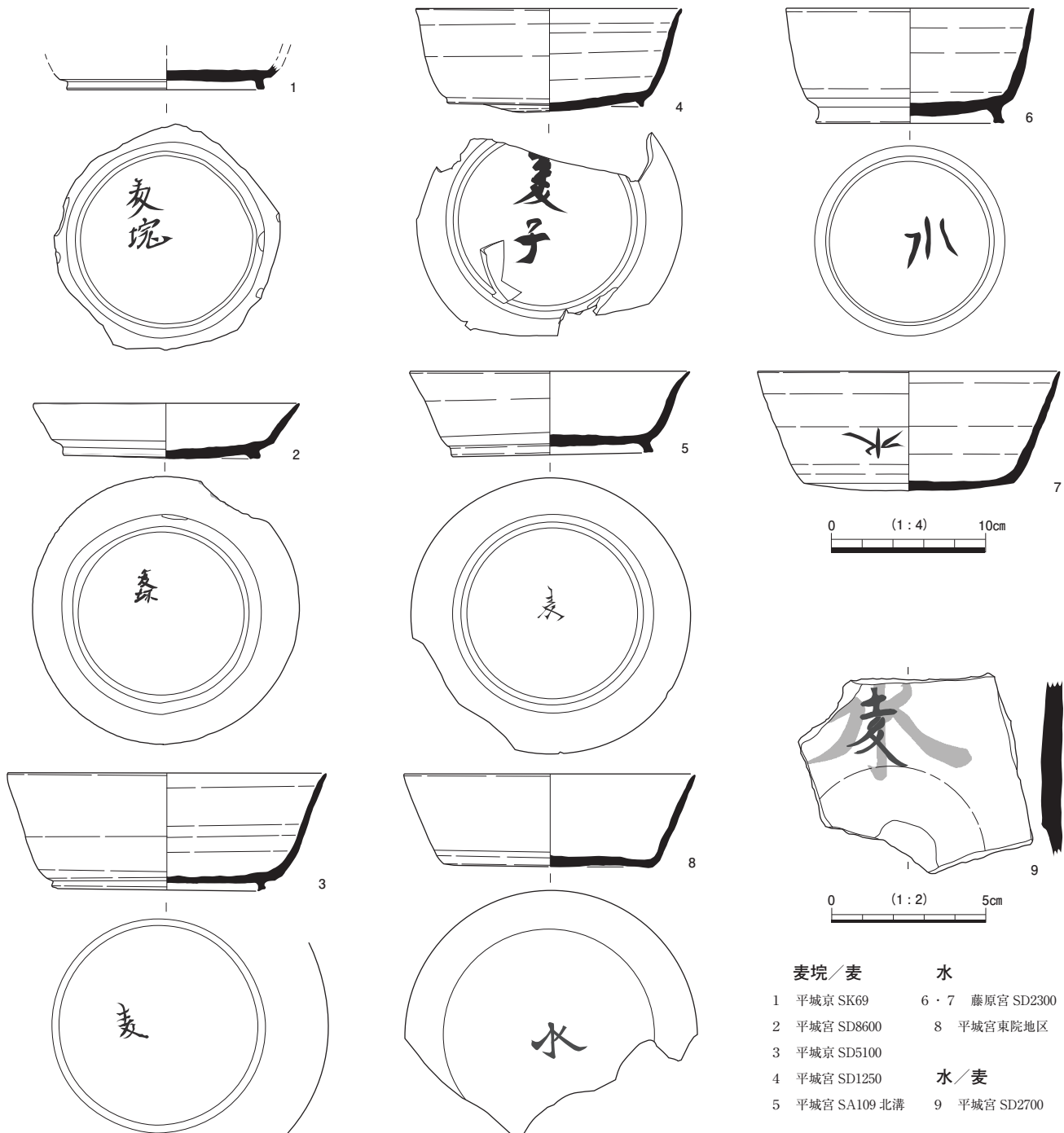


図89 藤原宮および平城宮・京出土の「麦」・「水」字墨書須恵器